

目標管理型の政策評価に係る評価書の標準様式

別紙2
(環境省23-27)

施策名	目標6-1 環境リスクの評価				
施策の概要	化学物質による人の健康や生態系に対する環境リスクを体系的に評価				
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の環境実態調査を実施し、基礎資料として施策の策定に活用。化学物質の環境リスク初期評価調査を実施し、環境を経由した化学物質による影響の未然防止を図る。 化学物質の内分泌系かく乱作用について調査研究を実施し、各化学物質が人の健康や生態系に及ぼす影響について明らかにし、リスク評価を実施する。 子どもの健康と環境に関する全国調査を実施し、次世代育成に係る健やかな環境の実現を図る。 				
施策の予算額・執行額等	区分	21年度	22年度	23年度	24年度
	予算の状況(千円)				
	当初予算(a)	180,609	171,528	138,208	109,496
	補正予算(b)	0	0	0	
	繰り越し等(c)	0	△1575	1,575	
合計(a+b+c)	180,609	169,953	160,155		
執行額(千円)	147,882	140,925	121,868		
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	-				

測定指標	1 化学物質環境実態調査を行った物質数・媒体数	基準値	実績値					目標値
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
		-	330	344	220	151	151	151
	年度ごとの目標値		330	344	220	151	151	
	2 環境リスク等初期評価実施物質数	基準値	実績値					目標値
		H16年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	23年度
		57	29	33	23	21	19	20
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	
	3 子どもの健康と環境に関する全国調査の参加者(親子)数(累積)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	39年度
-		-	11 (パイロット調査H21年2月よりリクルート開始)	453 (パイロット調査)	3,208 (調査実施体制の整備・H23年1月調査開始)	30,626	100,000	
年度ごとの目標値		-	-	-	8,000	33,000		

目標の達成状況	<p>○平成23年度については、151物質数・媒体数の化学物質の一般環境中における残留状況を把握し、化学物質に係る各種施策に活用された。</p> <p>○化学物質の内分泌系かく乱作用について、これまでに開発した試験法をOECDでテストガイドライン化し、平成22年からは、EXTEND2010に沿って、化学物質の選定、個別の物質の試験が実施された。</p> <p>○平成23年度については、環境リスク初期評価のための基礎情報の収集・検討作業を推進し、目標の19物質に対し、環境リスク等初期評価結果をとりまとめた。</p> <p>○「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」については、基本計画に基づき、調査実施主体となるコアセンター、メディカルサポートセンター、全国15地域のユニットセンターにおいて調査実施体制を整備し、平成23年1月末より参加者の募集・登録を開始した。</p>
---------	---

<p>施策に関する評価結果</p>	<p>目標期間終了時点の総括</p>	<p>○引き続き、化学物質の一般環境中における残留状況を把握し、調査結果が環境汚染の早期発見及び対策の立案・評価等に活用されることを目的として、省内関係各課室からの調査要望のあった物質について、一般環境中における化学物質の残留状況の調査を推進・強化する。調査に当たっては、化審法に基づく優先評価化学物質など、要調査物質の増加に対応するため、物質特性による同時分析の可能性などを十分に検討し、効率的かつ効果的な調査を実施する。</p> <p>○環境リスク初期評価(多数の化学物質の中から相対的に環境リスクが高そうな物質をスクリーニングするための初期評価)は、その結果が環境省内関係部署におけるより詳細なリスク評価等の検討などのための重要な科学的知見として行政施策にも活用されており、着実に進めていく必要がある。今後も、PRTRデータやシミュレーションモデルなどを活用しながら、ばく露データ、毒性データの充実を図り、リスク評価手法を改善しつつ初期評価を実施するとともに、過去にリスク評価を実施した物質のうち、当時、当面の作業を要しないとされた物質についても、当該物質の生産量や使用状況を踏まえ、再評価を進めていく必要がある。</p> <p>○エコチル調査では、全国の大学、医療機関等の協力を得て、10万組の参加者の募集・登録、出生児の健康調査等の追跡調査がを着実に進めるため、調査実施体制を強化する。</p> <p>○化学物質の内分泌かく乱作用について、リスク管理の検討に向け、評価手法の確立と評価の実施を加速化する等、EXTEND2010に沿った各物質の評価を進める。</p>
-------------------	--------------------	---

<p>学識経験を有する者の知見の活用</p>	<p>○中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会 ○化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会 ○環境リスク等初期評価に関しては、中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において専門的な検討をいただいているところ。 ○多数の専門家からなるエコチル調査企画評価委員会、国際連携会議、広報戦略委員会を設置し、本調査の企画・評価を実施し、適宜事業に反映。</p>
------------------------	--

<p>政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報</p>	<p>平成23年度化学物質の内分泌かく乱作用に関する総合的調査・研究業務報告書 平成24年度版「化学物質と環境」(平成25年3月公表予定)</p>
----------------------------------	--

<p>担当部局名</p>	<p>環境リスク評価室 環境安全課</p>	<p>作成責任者名</p>	<p>戸田 英作 早水 輝好</p>	<p>政策評価実施時期</p>	<p>平成24年6月</p>
--------------	---------------------------	---------------	------------------------	-----------------	----------------